

## §2 人口動態の概要

表7 出生率の推移

平成20年の出生数は、14,399人、出生率は、人口千対10.7で各都道府県・指定都市と比較すると、本市より高いところは、1県（沖縄県）と全国的にも高いところに位置している。各区の出生率をみると、幸、中原、高津、宮前が全市の10.7を上回っている。

	平成10年	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
総数	11.0	10.7	11.0	11.0	10.9	10.4	10.4	10.0	10.5	10.6	10.7
川崎	8.8	8.4	8.8	9.4	9.4	8.9	9.0	8.6	9.3	9.3	9.0
幸	9.2	9.3	10.1	10.6	10.2	9.4	9.8	9.7	10.4	10.2	10.8
中原	11.8	11.9	12.0	11.6	11.5	11.5	11.3	11.0	11.4	11.8	12.2
高津	11.8	11.7	12.2	11.8	11.9	11.5	11.8	11.1	11.8	11.4	11.6
宮前	13.1	12.8	12.3	12.3	11.9	11.2	11.4	10.7	10.7	10.8	11.2
多摩	11.5	11.1	11.6	11.4	11.0	10.7	10.5	9.9	10.0	10.7	10.3
麻生	9.7	9.1	9.1	9.8	9.5	8.8	8.5	8.1	9.3	9.2	9.2

資料：庶務課「人口動態調査（指定統計）」より

表8 再生産率の推移

出生率は、昭和46年以降減少傾向を示してきており、再生産率をみると、年齢階級別の合計である粗再生産率（合計特殊出生率）では1.32、また、女子だけの年齢階級別出生率の合計である総再生産率は0.64と、将来人口の増減の境界である1を下回っている。

	平成14年	15	16	17	18	19	20
出生数	13,646	13,175	13,331	12,845	13,648	14,051	14,399
出生率	10.9	10.4	10.4	10.0	10.5	10.6	10.7
粗再生産率（合計特殊出生率）	1.27	1.23	1.24	1.19	1.26	1.29	1.32
総再生産率	0.61	0.59	0.60	0.58	0.61	0.62	0.64
純再生産率	0.61	0.59	0.60	0.57	0.61	0.61	0.63

注）純再生産率の算出については、当該年の川崎市生命表を用いた。

資料：庶務課「人口動態調査（指定統計）」より

表9 全死亡及び三大死因による死亡率の推移

死亡数は、8,679人で前年より317人増加しており、死亡率は、6.4で前年を上回った。

死因別では、第1位・悪性新生物、第2位・心疾患、第3位・脳血管疾患となっている。

		平成10年	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
粗死亡率	全死亡	546.1	584.9	560.1	570.9	570.0	584.2	580.6	622.8	614.6	628.9	643.4
	悪性新生物	175.6	184.0	182.5	189.6	195.4	189.0	198.4	207.1	208.9	206.7	203.8
	脳血管疾患	82.5	87.2	77.3	72.4	73.3	81.6	70.2	75.1	71.4	67.3	69.2
	心疾患	74.5	78.2	74.8	83.2	80.5	80.7	87.1	94.8	90.8	97.6	97.8
死亡率 年齢調整	全死亡	178.4	181.9	168.2	166.3	154.5	157.3	150.0	153.9	152.3	149.9	145.1
	悪性新生物	55.5	56.2	54.8	54.9	52.8	51.2	50.8	50.6	51.5	49.2	48.0
	脳血管疾患	20.4	21.4	18.5	16.5	15.1	16.6	13.6	14.4	12.7	12.3	12.1
	心疾患	19.4	20.6	17.7	20.0	18.9	18.5	19.4	21.0	18.8	19.4	18.1

注）年齢調整死亡率の基準人口は昭和40年川崎市人口

資料：庶務課「人口動態調査（指定統計）」より